

# News IR

〒102-8336  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学 大学改革推進部 IR推進室

TEL (03)3261-1285  
FAX (03)3261-7413  
[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp

2016 VOL.01

## Contents

- ◆ IRについて . . . . . 1
- ◆ 二松學舎大学「学生の実態・満足度調査」実施 . . . . . 1
- ◆ 「学生の実態・満足度調査」結果への対応状況 . . . . . 4
- ◆ 二松學舎憲章 . . . . . 4

### ◆ IRについて

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

アメリカの大学で1960年代から発展してきたものであり、日本の大学ではここ10年ほどの間に、活発になってきました。背景には、大学の教育及び研究に関する質保証、大学の情報公開が社会的に求められてきていることがあげられます。

二松學舎大学においても、昨年度から本格化したIR機能を充実させ、本年度、IR推進室を設置しました。今後、大学の発展に寄与するために、IRを活用していきたいと考えております。

（参考：『大学のIR—意思決定支援のための情報収集と分析』 慶応義塾大学出版会株式会社 2016.4.25発行）

### ◆ 二松學舎大学「学生の実態・満足度調査」実施

#### ➤ 実施概要

平成28年1月に、本学の1年生、4年生を対象に、実態・満足度調査を実施しました。調査では、大学生生活全般に関して、学生に選択回答式及び自由記述式アンケートを行いました。

アンケート回答時間は、授業時間前後の15分ほどで、先にアンケートの趣旨説明を行い、その後、学生に回答をお願いしました。

調査回答数は下記のとおり。

	文学部 国文学科	文学部 中国文学科	国際政治経済学部 国際政治経済学科	その他	合計
全体 [人]	447	241	315	21	1024
1年 [人]	276	143	221	11	651
4年 [人]	171	98	94	10	373

※他大学（大学 I R コンソーシアムの調査）を比較対象（以下、ベンチマークと標記）としたアンケート分析内容となっています。

## ▶本調査を実施した成果

本調査を実施した成果としては、主に下記2点があげられます。

- ①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識

## ▶本調査結果の概要

### ●本学学生の学生生活に対する充実度

→「やや不満」、「とても不満」合わせて7.1%と9割方が不満なく過ごしていることが確認されました。

	とても充実	やや充実	どちらでもない	やや不満	とても不満	回答保留
全体（二松學舎） [%]	23.5	42.9	21.8	4.9	2.2	4.7

### ●本学の教育成果

→相対的に良好な評価がなされていることが確認されました。

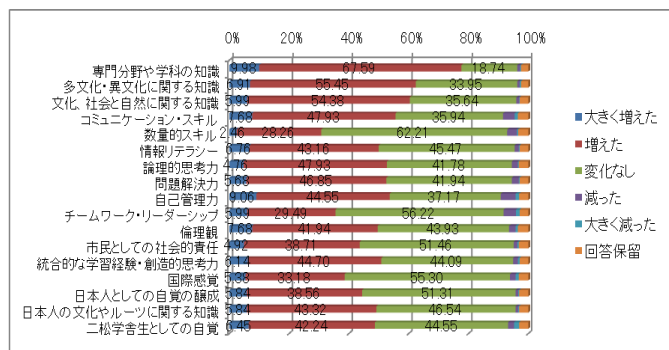
### 【基礎ゼミの満足度】

	とても満足	満足	満足の 合計値	どちらでもない	不満	とても不満	回答保留
1年（二松學舎） [%]	16.9	36.1	53.0	35.3	5.2	2.9	3.5
1年（ベンチマーク） [%]	5.4	32.4	37.8	50.8	8.4	2.9	-
4年（二松學舎） [%]	20.4	44.8	65.2	24.1	5.6	2.9	2.1

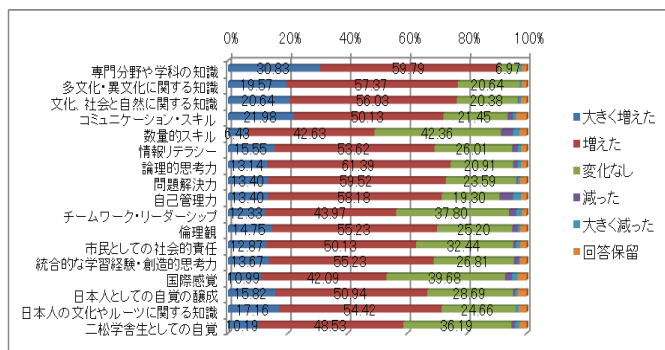
→二松學舎の1年生と4年生を比較すると、能力・知識は全体的に学年進行に伴い増したと感じられています。

### 【能力変化】

#### ▼1年生 [値： %]



#### ▼4年生 [値： %]



→こうした結果の背景としては、グループワークやフィールドワーク等の体験的学習や教員の提出物に対する添削・コメント活動が相対的に頻度高く行われていると受け止められ、また、授業時間外に教員と面談する機会が多いといった少人数教育の特性が高評価をもって受け止められていることがあげられます。

### ●本学学生の学生生活

→都心型大学として、立地を長所・誇りとして考える学生がいる。（自由記述で当該キーワードを6.5%が記入。）

→一方で、大学外でアルバイト・仕事をする時間が多く、校地の制限もあり部活・サークルに参加できずにいる実態がある。

#### 【ここ1年間の活動時間の内訳\_大学外でアルバイト・仕事をする。[値：%]】

	全然ない	1時間未満	1~2時間	3~5時間	6~10時間	11~15時間	16~20時間	20時間以上	回答保留
1年（二松學舎）	①21.4	2.5	3.8	10.4	14.1	②16.7	11.8	③15.8	3.4
1年（ベンチマーク）	①26.7	2.3	3.0	9.5	③17.1	②18.3	12.1	11.1	-
4年（二松學舎）	②15.3	4.3	7.5	12.6	11.0	③12.9	8.6	①26.0	1.9
上級生（ベンチマーク）	②17.7	2.6	3.5	9.0	③16.8	①19.1	14.6	16.7	-

#### 【ここ1年間の活動時間の内訳\_部活・サークルに参加する。[値：%]】

	全然ない	1時間未満	1~2時間	3~5時間	6~10時間	11~15時間	16~20時間	20時間以上	回答保留
1年（二松學舎）	①41.8	8.9	②15.1	③11.5	9.2	4.6	2.3	4.9	1.7
1年（ベンチマーク）	①29.3	8.2	③14.7	②18.7	12.5	6.6	3.2	6.8	-
4年（二松學舎）	①56.6	9.1	②11.5	③9.4	4.0	2.4	1.1	4.6	1.3
上級生（ベンチマーク）	①44.7	8.2	③11.3	②12.6	9.2	4.6	2.7	6.7	-

### ●学生の能力

→他大学と比較可能な「コミュニケーション・スキル」、「自己管理能力」とともに、二松學舎の学生は相対的に高い値を示しています。

※「大きく増えた」・「増えた」の合計値 [%]	1年（二松學舎）	1年（ベンチマーク）	4年（二松學舎）	上級生（ベンチマーク）
コミュニケーション・スキル	55.6	57.2	72.1	69.0
自己管理能力	53.6	48.8	71.6	60.2

→一方、授業において「自分の考え等を発表すること」や「授業中に学生同士が議論すること」が少ない。学士力に照らした「チームワーク・リーダーシップ」力の定着が鈍い等、課外活動で養われるべき人間関係構築力、協調性、チームワーク力養成に繋がる授業展開（グループディスカッション、ピアトレーニング、ピアワークショップ等）の必要性について検討していくことが重要だと思われます。

→初年次における図書館やWeb等を活用した情報収集や「文献・資料の調べ方」に疎い傾向も見てとれるので、これら初年次教育の充実等、今回の調査結果を踏まえた課題に取り組んでいく必要があります。

#### 【本学授業及び授業外での学習状況 [値：%]】

※「頻繁にした」・「時々した」の合計値	1年（二松學舎）	1年（ベンチマーク）	4年（二松學舎）	上級生（ベンチマーク）
図書館の資料を利用すること	59.3	63.1	82.5	74.4
Web上の情報を利用すること	77.1	89.4	85.2	92.1
授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりすること	71.0	73.1	69.7	73.4

## ◆ 「学生の実態・満足度調査」結果への対応状況

標記調査結果を踏まえ、本学では、下記のように大学生活全般の改善に努めています。

### ● 調査結果の学内外への浸透

- 学内の各会議（理事会、大学運営会議、教務・学生委員会等）への報告
- 本文書等によるステークホルダーへのフィードバック

### ● 教育内容改善への取組み

- 積極性、探究心、リーダーシップ、課題解決力等が育成されることを目的として、グループ学習や問題解決・発見学習といったアクティブ・ラーニングを意識した授業展開について議論やFD活動が行われている。
- 今期の春 semester では、教員がお互いの授業を観察し、授業方法等を検討するための公開授業を実施。
- 1年生時に行われる「初年次教育」の内容を検討する中で、情報収集力の向上策等を盛り込んだ共通テキストの作成を計画。

### ● 学校施設に関して

- 自由記述式回答結果のキーワード分析等を踏まえながら、下記のように施設の継続的な改善に努めている。  
「全体的に照明が暗い。」→校舎の照明のLED化を年度毎に進めます。  
「トイレが狭い。」→地下一階を手始めに、トイレのリニューアルを漸次進めています。  
「空調設備がいまいちである。」→大規模教室において空調温度の調整が出来るように、改善を行っています。

## 【二松學舎憲章】

### <建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

### <教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

### <学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

### <社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松學舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] [gakumu@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:gakumu@nishogakusha-u.ac.jp)